第２回大刀洗町自分ごと化会議　議事要旨

日時	２０２３年１２月１６日（土）１３時００分から１６時００分
場所	大刀洗町役場３階大会議室
会議参加者	出席者数２２名（欠席者数４名）
大刀洗町	町長、副町長、教育長 事務局：総務課 説明担当課：建設課、産業課、総務課（消防防災安全係）、筑後川河川事務所
コーディネーター	伊藤伸（構想日本　統括ディレクター）

概要

１．これまでの議論と本日の進め方について

・コーディネーターより振り返り、第２回の内容確認

２．前回会議時の質問を受けての説明

・冠水の可能性がある場所、警戒レベルや避難所についての説明（総務課）

３．全体協議

（１）前回欠席者の自己紹介

（２）議論（前半）

（３）議論（後半）

（４）町長挨拶

４．事務連絡

会議内容

１．これまでの議論と本日の進め方について

（１）コーディネーターから流れの説明と前回の振り返り

- 前回は皆さんに話を聞いていただいて自己紹介をしていただいた程度で終わった。
- 今回は皆さんにたくさんご発言いただきたい。特に「水害に備えて自分や自分たちでできること」は何かというところを考えていただきたい。
- 水害が身近に起こりうる方（川の近くに住んでいる方）とそうではない方で水害への関心に対する温度差があるということが前回わかっている。そこで、関心を持つための工夫についても今回の議論のテーマにしたいと思う。
- 前回の会議の中で、直近 5 年間は毎年のように水害が起こっていて、同じような場所の道路が寸断されて車が通れなくなっており、行政としてどのように対処していくかということも話題にあがっていた。しかし、行政としてできることはやっているという側面もあるので、逆に住民の立場として何ができるのかを考えていきたい。
- 前回のアンケート結果によると、全体的な雰囲気として期待感を持っていただけているかと思う。大刀洗町での住民協議会は 10 年目となり、以前一度参加を断ったものの今回は参加していただいている方がいらっしゃったり、3 回連続で参加していただいている方がいらっしゃるな

コ：コーディネーター、委：委員、町：町出席者、河：河川事務所

ど、長く継続しているからこその特徴も現れているように感じる。

- 無作為抽出という手法を使って会議を行う意義は、参加したい人、やる気がある人、発言したい人だけではなく、たまたま抽選で当たった人に対してもこうした場において普段感じていることを話してもらうことができるという点にある。そうした日常生活に基づく意見は、行政の中で普段あまり目を向けられていないものがあり、施策を考えていく中での大きなきっかけ、参考になることがある。
- 今日からは、会議の最後に改善提案シート（最終回は意見提出シート）の記入をお願いしたい。４回の会議が終わったタイミングで、委員の皆さんから町長に提案書を提出するが、その提案書のもとになるのがこの改善提案シートに書いていただく内容となる。シートの左側には今日話している中で感じた今の課題を、右側にはその課題を解決するために自分でできること、地域でできること、行政でできることを書いていただきたい。きれいに整理して書けるものではないと思うが感じたことをできる限り書いていただきたい。書いていただいた意見は次回までに構想日本で取りまとめを行う。
- アンケートも改善提案シートも同じように、左上に二次元コードを記載している。前回、紙の配布資料が多いという意見があったことも踏まえて、各自のスマホから回答できるようにした。
- 今回はまず大刀洗町役場の担当から、それぞれの校区ごとにどんな避難場所があるのか、町内のどこがこれまでの水害によって分断されたかという話をしていただく。また、避難警戒レベルのことについても説明をしていただいたうえで、皆さんと議論を進めていきたいと思っている。

２．前回会議時の質問を受けての説明

（１）冠水の可能性がある場所、警戒レベルや避難所についての説明

大刀洗町役場 総務課から資料をもとに説明　「流域治水『自分ごと化会議』」参照

- （表紙から数えて）２ページ目には大刀洗町の地図を掲載しており、水色でマークされた部分が町内で冠水したところである。マークされていない部分でも冠水していたり、その逆もあるかと思うが、大まかに参考として考えていただきたい。特に町南西側の県道 53 号線沿いや本郷校区の南側はほぼ冠水した地域として記されている。
- 影響を与えていると考えられる川は、西側では大刀洗川、中央だと陣屋川、東側だと小石原川や佐田川、二又川などである。大刀洗町は川が多く走っているといえる。
- ３ページ目は令和２年７月豪雨の時のヘリコプターからの写真。町内のそれぞれの川の様子を見ることができる。大堰地区の西原区や菅野区、本郷校区の栄田区（今川地区）については住宅もそうだが、周辺の田畑や農道についても冠水している状況となっている。記載している通り、この時に筑後川の水位が過去最高を記録した。筑後川の支川（しせん）の川の水が流れ込めなくなって氾濫している状態だった。
- ４ページ目は下高橋区のあたりの航空写真である。大刀洗小学校や南部コミュニティセンターがあるあたり。
- ５パージ目からは小学校区ごとに冠水した場所や避難経路などについて記している。５ページ目

コ：コーディネーター、委：委員、町：町出席者、河：河川事務所

は大堰校区について。中心部に大堰小学校があり、西側には憩いの園大堰交流センターがある。（どちらも指定避難所）大刀洗町役場や中央公民館、ドリームセンターなどについても同じである。大堰校区では小石原川が南北に流れており、大堰小学校の前の道（県道１４号線）や県道５８４号線が事実上の通行止めとなった。赤で示している部分は過去に冠水により通行止めとなった箇所であるが、このあたりの農道や里道、町道についても通行止めとなった。特に西原地区においては標高が低くなっていること、小石原川と筑後川が合流する部分になるため、浸水深が胸の高さくらいになるまで深く冠水したところもある。大堰交流センターでは床上浸水が発生し、大堰保育所でも過去に床下浸水が発生したことがある。

- ６ページは本郷校区について。この校区の避難所は本郷小学校や大刀洗中学校などがあるが、本郷小学校から本郷駅に通ずる本郷駅前線や、陣屋川沿いの県道７４３号線は冠水による通行止めが発生した。特に小石原川の南東側については、栄田区は完全に水に浸かり下稲数のあたりまで被害が及ぶこととなった。
- ７ページは大刀洗校区について。この校区については大刀洗川沿いが冠水している状況である、特に国道３２２号線、県道５３号線、県道１４号線の周辺では冠水による通行止めが発生した。この影響で、小郡市や久留米市、筑紫野市に通行ができない状況となった。
- ８ページ目は菊池校区について。この校区の避難所は菊池小学校などがあり、大刀洗町の中で最も標高が高い地域であることから、広範囲にわたる浸水被害はない。しかし、大刀洗川沿いについては被害が発生した場所もある。他の地域との違いは、住宅が密集していることから、側溝から水があふれたり、地域内で少し標高が低くアスファルト敷きになっているところに水が溜まってしまったりする、都市型の水害が発生していることが特徴として挙げられる。
- ９ページ目は、町の災害情報の伝達手段について記している。災害が起こる危険性が高まった時、もしくは、実際に災害が発生した時に町はいろんな方法を使って皆さんに漏れなくお知らせすることとしている。エリアメールについては大刀洗町内の電波が入る場所にいればスマホや携帯電話で自動的に町から受け取ることができる。防災アプリは福岡県が開発したもので、防災情報を入手するにはとてもいいアプリである。緊急告知防災ラジオは令和３年から販売、貸与を行っている。防災行政無線は今年度から運用を開始した。
- １０ページは警戒レベルと避難情報を表したものである。警戒レベル３になると町から高齢者等避難という情報を発信する。住民の皆さんには、レベル３が発令された時点で普段の行動を見合わせて避難の準備や避難を始めていただきたい。レベル４になると避難指示を発令するため、危険な場所からは全員が避難していただきたい。なお、大刀洗町に土砂災害警戒区域は存在しない。このことが原因で近隣の久留米市には避難指示が発令されているにもかかわらず、大刀洗町には発令されていないという状況になることがあるのでご留意いただきたい。レベル５は災害が発生している状況、もしくはいつ発生してもおかしくない状況である。レベル４までに安全な場所に避難していただきたい。
- １１ページから１３ページは避難情報発令の判断基準について説明している。様々な要因をもとにレベル３以上を発令することとしている。
- １４ページには校区ごとの指定避難所を記載している。すべての避難所が地震と大規模火災には対応しているものの、水害の被害に遭う可能性のあるところや、二階以上に避難できるスペース

がない避難所については水害時には開設しないこととしている。

- １５ページは過去５年間の大雨時の避難情報発令状況を示している。のべ１５回発令している。小石原川の東側の地域や下高橋、鵜木などでしばしば発令されている。
- １６ページ以降は流域治水を自分ごととして考えていただきたく資料を作成した。自分のため、家族のため、地域のためと段階的に視野を広げていただきたい。家庭内備蓄については「ローリングストック」＝（非常食などの備蓄品を賞味期限が切れる前に定期的に入れ替える）も活用して備えていただきたい。

３．全体協議

（１）前回欠席者の自己紹介

コ：ここまでの話に対しての質問も含めて全体の協議を進めていきたいと思っているが、先に今日初めて参加された方に自己紹介をしていただきたい。

委：先ほどの避難情報発令の際にはいつもリストにあがっている鳥飼に住んでいる。周りには川がたくさんあり、恐ろしい地域だと思っている。

委：菊池校区に住んでいる。家の裏が土手で、家の近くの川が毎年増水する。いつも川を見ているので雨の時の増水の様子なども感覚的にはわかっている。家がコンクリート製であるため、避難の途中で危険な目に遭うよりも垂直避難した方がいいのではと考えている。

コ：今までに避難所に行かれたことは？

委：一回だけ避難しようと思って家を出たことがあるが、焦っているからか周りの人の運転が危なく、引き返した。避難するときは早めに避難しないとパニックに巻き込まれると思う。

委：菊池校区に住んでいる。標高が高い場所に住んでいるため避難をしたことはない。大雨の時に仕事で県外に行こうとしたら通行止めで、それならば久留米に行こうとしても通行止めだった。避難の経験はないもののそうした通常生活への影響を経験したことはある。大刀洗町に引っ越す前は県内のよく浸水被害が起こるところに住んでいた。

委：西本郷に住んでいる。自分も避難したことはないが、家の前の道路に水がたまり恐い思いをしたことがある。

（２）議論（前半）

コ：先ほど町から説明していただいた資料はそれぞれの校区ごとにどこが冠水しているかということが細かくわかるようになっていてとてもよくできていると思う。この資料の中や先ほどの説明において質問などはあるだろうか。

委：前回、治水は水害を防ぐことだと町から説明があり、大雨が降ったとしても水害の起こらない町をどう作っていくのかということを考えていくのだと思っていた。しかし、今日の説明の最後では水害が起こったあとに私たちがどう行動するのかということをまとめられているように思われる。つまり、私たちの町は水害が起こるものだという前提で、起こってからどうしたらいいのかをこれから考えていくのだろうか。会議の方向性がわからないので教えていただきたい。

コ：コーディネーター、委：委員、町：町出席者、河：河川事務所

コ：両面だと思っている。水害の被害を最小限にするためには平時のうちに何をしたらいいか、ということを役場でも考えているが、住民が考えられること、できることはないだろうかということを今日は話したいと思っている。しかしながら、この５年間毎年のように大雨災害が起こっているという状況のもと、災害が起こったときに何ができるのかということも当然考えていかなければならない。今日はその部分まで話すことができないかもしれないが、残り２回の会議の中で話をしたい。もしかしたら大雨による冠水はこれからも続くかもしれないが、日ごろの取り組みのおかげで安心感が増したり、冠水する場所が減ったりするかもしれない。この４回の会議の中でそんなことを考えられればと思っている。

委：自分は生まれてからずっと町内で一番川の氾濫が多い所に住んでおり、長年川の状況を見てきている。近年は線状降水帯などで雨が多いということは何となくわかっている。しかし、自分が小学生のころ（約５０年前）も雨は多かったと思う。降水量が多くて学校から帰宅できないことは多々あった。今が取り立てて雨が多く降っているわけではないのではないか。その証拠に昔は農業倉庫に船が吊ってあったし、雨が多い地域だということはみんながわかっていた。また、大堰校区の小石原川から東側には大雨時の避難所が存在せず（憩いの園と大堰小学校は大雨時の避難所に指定されていない）、大雨になると全く動けない状況になる。大堰小学校なら避難することはできるかもしれないが、避難所であるということはあまり知られていないのではないだろうか。そして大堰郵便局前はすぐに水が逆流することから、大堰小学校より東側に住んでいる人は小学校から西側に行くことはできない。昔からの家は基礎工事の位置が高いが、最近の新築住宅はその位置が低いことが多く、そのことが影響して新築の住宅は水に浸かることが多い。先ほどの資料の大堰校区のページを見ていただくとわかる通り、大堰校区内の鳥飼や床島は少し高くなっているところなのでむやみやたらに動かない方が安全だと思う。

他には、３０年ほど前に渇水対策で床島用水などをコンクリート張りにして水を浸透させないように工事した。その工事のあとから近所では地下水が出なくなった。このように水の出口がなくなっている側面もあるため水害は人災ではないかと考える。乱暴に言うと、水の出口を得るためにコンクリートを壊すようなことも必要なのではないか。さらに、筑後川本流が以前に比べて非常に浅くなっている印象がある。５０年ほど前は川砂を採取しており、川の一番底まで潜ると真っ暗なほどに深かった。今は地上から見ても底が見えるほどに浅いように感じる。

コ：今の話にはいくつかのポイントがあったように思う。まず、この町において、大雨は以前から降っていたことから、ある程度水害は引き起こされていたと。前回、建設課から、この５０年ほどの間で雨量は増えているという説明があったと思うが、その事実については間違いないか。

町：雨量が増えていることについては間違いない。

コ：ということは、データで見ると雨量は間違いなく増えていると。すると次は対策のところで、今までは吸収できていた水が吸収できなくなっているような工事が行われているのかもしれない。本日は河川事務所の職員にお越しいただいているので事実関係について説明していただきたいと思う。

河：自分の担当事務ではないので詳細についてはお答えできない部分もあるが、筑後川本川（ほんせん）での砂利採取がなくなってからずいぶん久しい。砂利採取がなくなってから本川自体に堆積しているのではないかという意見はたくさんいただいている。我々は５年周期程度で筑後川本川の測量しており、川泥がどのように変化しているかの調査を昭和２８年から続けている。その結果を追い、昭和２８年の河床の

高さと直近の高さを平均して比べてみると、川泥が堆積しているという傾向はなく、逆にすこし河床が下がっているという状況にある。

コ：こうした話を知ることは非常に重要。実感として感じることとデータでの現れ方が違うこともある。しかし、信じられないという皆さんの反応を見えていると、もしかしたら場所によっては浅くなっているところがあるのかもしれない。もし次回までにわかるようであれば教えていただきたい。
もう一つは避難の話。先ほどの説明の中に災害警戒レベルの話があり、警戒レベル４は避難指示が発出されているということで、安全なところに避難しましょうという案内になる。ここ５年間では毎年レベル４が発令されている。実際には気象庁が大雨警報などを発令し、市町村判断でこれらの情報を発令されていることと思う。しかし、大雨の時に家を出る方が危ないということは先ほどから何人かがおっしゃっている通り、事実として考えられる話である。だからこそ町としては少し早めに避難してくださいという案内になるのだと思う。実態として、行政としては早めに避難情報を出して、避難指示が出たときは危なくて避難できないということにならないようにしようとしているのか、もしくはまだまだそのことについては課題が残されているのかいかがだろうか。

町：近年の国や市町村の考え方では、空振りを恐れず警戒情報、避難情報を出していくという方針になっている。平成２９年以降は特に毎年のように水害が発生している状況であることから、町の防災部局としては早め早めにレベル３やレベル４を発令しようと考えている。

町長：実際に１０年前の避難指示や避難勧告よりも早めに出すようにしている。特に高齢者避難等避難についてはまだ全然雨が降っていない状況であっても、被害が発生しそうな見込みがあるときには発令することにしている。避難指示についても以前より確実に早めに発令している。

コ：役場の立場からするとできればその時点で避難所の方に向かってほしいということになるだろうか。前回の会議でも、いざ避難しようとすると迂回路になっていたり、そもそも通行止めになっていたりすることがあるという話があった。今、町、町長からの話を聞いて、すぐに避難するべきだと思われるだろうか。

委：避難するとなって車で移動しようとすると、経路となる道は低いのでおそらくたどり着けない。また、以前の大雨の際、避難している人数がすごく多かったこともあり、校区内の住民が全員避難できるわけではない避難所が十分な役割を果たせているかどうかについては懐疑的な部分がある。色々含めると私は避難することはないと思う。

コ：私が気になったのは、大刀洗校区の２か所の避難所は、２か所とも雨の時には使えないということ。大雨の時は開けてはいる？

町：基本的には開けていない。

コ：では、大刀洗校区の方はどうしたらいいのだろうか。

町：ここ最近の話で申し上げると、中央公民館やドリームセンターなどをメインとして開設している状況。

委：大刀洗校区の住民は逃げる場所が近くに存在しないということか。

町：その通りである。公共交通機関や県道１４号線が問題なく運行できる状況であればいいが、そうでないと厳しい。ただ、それぞれの校区で割り振りをしているのはあくまでも目安であるため、必ずしも自分の校区の避難場所に行かないといけないわけではない。土地勘のない避難所に行くのは難しいとは思うが、町が準備している避難所全体で考えていただければと思う。大刀洗町の浸水想定区域外に広い施設があればそこを利用したいとは思っているが、残念ながらたくさんの方が避難できる施設がなく、今ある施

設を利用している状況である。なお、大刀洗町内だけではなく、町外の施設を利用していただくということも可能である。（協定がある）

コ：もう一つは、水害を防ぐという観点で考えると、大刀洗校区の中で冠水するポイントが減ってくることによって、ドリームセンターに行ける人が多くなる可能性もあるかもしれないのではないだろうか。前回、その手段の一つとしてため池を増やしていくという話が町長からもあったと思う。ただ、大刀洗校区の周りにはため池はあまりなかったのではないだろうか。

町長：ため池の浚渫（しゅんせつ）（河川や港湾などの底の土砂を掘ること）は昨年度から３か年で計画しており、大刀洗校区でも２年間で１つのため池を浚渫しているところである。町全体で新たに１０万㎥の容量を確保し、県でも２６万㎥の池を今年から整備してもらっている。また、下高橋地区に限っていえば、筑後川本川の水位が高くなることにより下流から浸水してくることが一番の問題だと思っている。よって、河川事務所にもお願いをして、今回の補正予算も含めて筑後川本川の浚渫も進めていく予定である。本川の水位が高い時間が短くなれば大刀洗川の水位も低くなるので避難しやすくなるのではないかと認識していている。

コ：大刀洗校区の方は他にいらっしゃるだろうか。

委：中川地域に住んでいる。ここは周りの地区がほぼほぼ冠水している地域であり、どこに逃げるべきかと身内が住むほかの地域や隣の校区なども含めて常に考えている。

町：上高橋は周辺に通行止めとなる箇所が多いため、無事に家に帰ることができるだろうかと常に考えている。しかし、避難については全く考えたことがなく、犬も飼っていることから現実的に無理があるかと思う。実際に避難所に行くとどうなっているのか、どんな人がいるのか、どんな生活をしているのかなど全くわからない。今回の７月の豪雨の際、避難所へ避難した人がいるかどうか職場で尋ねたが、一人もいなかった。むしろ町を出て親戚の家に行ったという人が多かった。

コ：先ほど町長からも話があったように、最近の避難指示は早め早めに出すようにしていることから、指示が出ているタイミングはそんなに強く雨が降っている状況ではない。すると、なぜ今の状況で避難指示を出すのかと逆にクレームの電話がかかってくるようなことがしばしばある。そして気付いたときにはもう動けないということが大刀洗町に限った話ではなく全国的に起きている。ということであれば、避難所に行くことだけを考えるという今のやり方そのものを変えた方がいいのではないかとも思う。この中で避難所に行かれたことがある方はおられるだろうか。

委：台風の時に行ったことがある。逆に、水害の時にどれくらい避難された方がいるのか聞いてみたい。

町：実は水害よりも台風の時の方が避難される方は多い。台風の時は町内全体で最大で５００名ほどが避難所に来られた。どの場所が大きな影響を受けるかによっても変わるが、水害の時はだいたい１００人から２００人ほどが避難されている。正確なデータは今手元にないが、今年の避難指示の時もおそらくその程度だったと思われる。

委：避難所に行ったことがない方が多いが、私は一度行ってみるといいと思う。初めて私が避難した時はコロナが流行する前だったので、体育館に大人数が入っていた。この間避難した時はひとつずつのテントのようなものに分かれていた。後から来た方はもうテントがないと言われていた。一度荷物を置きに来て足りないものがあれば追加で取りに帰った。泊まってみると必要なものがよく分かった。犬を連れてきている方もいたが、中には入れないので廊下に泊まっていた。

コ：コーディネーター、委：委員、町：町出席者、河：河川事務所

コ：どこの避難所に行かれたのか。

委：ここ。（大刀洗町役場）

コ：結構な人数を一つの避難所で受け入れることになると思うが、満員に近い人数まで受け入れたことはあるだろうか。

町：資料に記載している受け入れ人数はコロナ前の理論値であり、大規模な地震が発生したと仮定した時にテントなどを使わずに受け入れた場合の人数を想定したものである。台風の時に限定すると、中央公民館に１００数十人、ドリームセンターに２００数十人の方が避難されてきている状況。コロナ以降はテントをパーテーションとして利用しているので以前よりも場所を必要としている。

コ：デジタル技術を防災に活かす取り組みも行われており、避難所のアプリなどもある。マイナンバーカードを利用してアプリに登録し、避難所の二次元コードを読み込むことでどの日にどんな人が何人いるかということがすぐにわかるようになっている。おそらく避難所に行った際（帰る際も）は住所や名前など色々記入したと思うが、熊本の地震の時のように一気に人が押し寄せると混雑し、帰ってしまう人も出てくる。そして帰ってから二次災害で亡くなられた方もいるため、入口をいかに混雑させないかということが避難所運営では重要になる。このアプリのもう一つの強みは、例えば赤ちゃんがどの避難所に何人いるかなどと言うことがすぐにわかるため、粉ミルクやおむつなどを過不足なく必要な数だけ届けることができるということ。こうしてきめ細かいサービスができるようになる。普段飲んでいる薬やアレルギーなどもあらかじめ入力しておくことができるので、普段飲んでいる薬などを災害対策本部から一時的に届けるなどということも実験的に実施している。このような取り組みも含めて、避難所に行ったことがないから不安であり、それなら行かない方がいいという状況を、行っても安心できるという気持ちに変えていくことが重要である。家にいても安心、避難所にいても安心という状況をいかに作っていけるかが問われているのではないかと思う。避難するかしないかという観点で今の話を聞いてどう思われるだろうか。

委：これを機会に一度避難所に行ってみたいと思うようになった。

コ：今日は自主防災組織の避難訓練を行っていると聞いたがどんな訓練だろうか。

町：本郷ふれあいセンターにて実施しており、防災講和や年末の活動としての避難訓練などを行っている。

コ：ということは、皆さんに避難所へ来ていただき、避難所ではこんな生活をします、といった説明をするのだろうか。

町：どちらかというと住民の避難の仕方や災害に対する心構えなどについて説明を行っている。

コ：本郷地区の方で今日それが行われているということを知っていた方はいらっしゃるだろうか。（ほぼおらず）そうした訓練などに参加してみたいと思われるだろうか。

委：避難訓練は職場では定期的に行うものの地域の避難訓練に参加したことはなく、参加してみてもいいかなというくらい。

コ：実際に雨が降っているときに避難所に行くという選択肢は持ちにくいものだろうか。家にいようと思うのだろうか。

委：あまり出歩かない。

コ：すごく難しいことだと思うが、行政の立場からすると何をもって大雨の被害を防ぐのか、どういう状況になればうまくいったといえるのだろうか。多くの人が避難をして亡くなる方や怪我をされる方がいな

コ：コーディネーター、委：委員、町：町出席者、河：河川事務所

いという状態だろうか。

町：亡くなる方がいないのは当然のこととして、怪我なく早め早めに避難していただくというのが町の考える目標かと思う。

コ：早く避難してほしいと考えている行政と、家にいた方がいいと思っている町民の間にギャップがあると思う。

委：私は北山隈の住民であるため水害の危険性が極めて少なく、また近くに避難所もあるため安心して暮らせる。しかし、今回の配布資料を見ると、自分たちの住んでいる町がいかに危険なところかということをはっきりと認識することができた。大雨が降るという情報は１日２日前から入手できるはずなので、その情報に基づいて早めに避難するということが重要かと思う。

コ：家に帰ろうとしたら道路が冠水していて帰り方がわからなかったという経験をお持ちの方もいらっしゃるが、町としては早めに避難してほしいとの考えを聞いてどう思われただろうか。

委：避難指示はどんどん出るが、避難所に行ったときにどれだけプライバシーを守れるのか、といったところに不安があり、周りに気を遣って不自由な思いをするなら家にいた方がいいのではないかと思う。しかし、大雨の時も家の耐久性自体には不安を感じたことはないものの、周りの冠水状況に不安を感じる。一方で大雨は毎年のことなので慣れてきている自分もいる。総合的に考えると、避難所には行かなくてもいいかなという結論になる。雑魚寝だと思っていたのでテントなどがあるというのは驚いた。持っていく物なども気を遣うことになるため、自分の家か自分の車を小高いところに移動させてその中で過ごす方がいいのではないかと思う。

コ：そういう意味でもまず一回行ってみるということは大事かもしれない。

委：自分の時は人数分の敷物や枕、ブランケットなどを持って行った。また、夏場でもクーラーが効いていて結構冷えた。周りのことはどうしても気になる。カップラーメンだけ持って行ったが避難所にはお湯がないなどということも気が付いた。

委：自分は親戚の家にずっと避難していた。町の避難所の状況を知るためには一度行ってみてもいいのかなという気にはなったものの、１００人を超える人と一緒にいるよりは町外の親戚の家に行く方がいいかと思うところもある。

コ：行政側からすると、親戚の家などの安全な場所に行くこと自体を否定しているわけではなく、自宅以外に行く場所がない人の中で危険な目に遭う可能性がある方は避難してほしいということでいいだろうか。

町：町内外を問わず安全な場所に身を寄せることができるのであればそうした場所に向かってもらうのがベストだと考える。普段から集会などで使用している場所を流用して避難所として使用することになるので、快適さに関しては保障できない部分もある。

コ：どこに行こうとも安心・安全な場所で身を守ってほしいということ。

委：自分の住んでいる地域では水害の危険性はないが、仕事の関係で災害の起きた場所に行くことはある。今までの話を聞いていると、行政と住民のギャップがあると思う。役場からすると、自分たちの力で早めに避難してほしいという思いがあるのではないだろうか。住民側からするといろんな意味で避難しやすい避難所がほしいと思っている部分があると思うのでそのギャップはなくしていった方がいいのではないかと考える。

コ：誰もがみんな避難所に向かってほしいというわけではないということをもっと周知してもいいのかもし

コ：コーディネーター、委：委員、町：町出席者、河：河川事務所

れない。

町：大刀洗町が準備した避難所が必ずしも安全だとも限らない。役場やドリームセンターも浸水想定区域内に存在する。ひどい災害の時は町内だけでは賄えないということも十分にあり得る。なるべく安全な場所を選定して開設するようにはしているが、より安全な場所が見つかった際はそちらの方に向かっていただくのが町としても望ましいと考えている。

コ：ここでいったん休憩をとる。前半は前回皆さんからいただいた意見をもとに、行政側から説明をしていただき全体で議論してきた。雨量は事実として増えている、ではその対策はどうなっているかというところを考えると、例えば筑後川は浅くなっていないという話があった。ではどうすれば安心感を持つことができるかということを考えるにあたって、前半は避難所についての議論が中心となった。しかし、皆さんの生活実感として避難所にはなかなか行けない、さらには大刀洗校区には水害時に開設される避難所がないという問題もある。そこで町としてはできる限り早めに避難指示を出すことで、安全な間に安全な場所に向かってほしいというメッセージを発信している。議論の中で、大雨の時には家を出たくないし、大雨が降る前にはわざわざ避難所に行こうという気にならないという意味で双方間にギャップがあることも分かった。事実の情報として、今年の水害時にはすべての避難所をあわせて１００～２００人が避難所におられた、台風の時には全体で５００人だったという説明もあった。もちろんこれは避難所に行くことが全てではなく、垂直避難や知人、親戚の家などに行くことも推奨するということを行政はもっと打ち出してもいいのかもしれない。高齢者など自分で自分の身を守るのが難しい方については特に早めに安全な場所に向かってほしいという思いがあり、自分の親などに対して早めに避難所に向かうように促すことも必要かもしれない。そのためには避難所は安全だということを伝えられるように一度体験しておく必要がある。また、避難所を含む安全な場所に行くことができないという状況を解消するためには、冠水している場所を減らすということが一つのカギとなる。今も町で実施していることの一つとしてため池を作ることなどが挙げられるだろう。ここまではどちらかというと役場の取り組みに対してどうしていくかという議論が中心だったが、後半は自分たちで身を守るためには何ができるかということを話したいと思う。

（３）議論（後半）

コ：避難所にペットを連れていけるかということを改めてお聞きしたところ、ドリームセンターのみ可で、ケージに入れられるペットについてはケージごと連れてきていただければ廊下で一緒に過ごすことができるということであった。このことについては自治体によってさまざまで、ペットは完全にダメなところもあれば、犬はいいが鳥はダメなどいろんな基準を作っているところもあるし、個々の避難所に判断を任せているところもある。次回はナビゲーターに来てもらうという話をしたが、ナビゲーターの役目は、大刀洗町以外の専門的な知識を説明してもらうところにある。今回招致するのは、大刀洗町と同じ平野部であり、１０年前くらいまでは全く水害の被害がなく安全だと言われ続けていたのにもかかわらず、この１０年ほどの間に立て続けに大雨災害が起こっており、死亡者もかなり発生している広島県三原市において８００世帯程度の地域の自治会長を担っている方である。その地域では、２０年ほど前から毎年１１月３日に自主防災訓練をずっと行っており、今では４００人くらいが参加する訓練になっている。備蓄庫には炊飯器などもあり炊き出しができるようになっている。１１月３日にはみんなで実際に体験をしており、大雨災害による死亡者、けが人はいないという成果も出している。余談だが、今回は皆さん

の席の近くに青色のボックスが置かれていると思う。これはカバンを置く場所がなかったという前回の意見を受けて町の職員が対応したものである。こうしたことも含めてこの会議は委員の皆さんとともにつくっていくものだといえるだろう。後半は水害に備えて自分、自分たちで何ができるかということを考えていきたい。

委：今日行われている避難訓練などにまずは参加してみるというのはどうかと思った。しかし、内容を聞いていると説明を受けるだけという感じがしたのでおもしろさ、行ってみたいと思う気持ちに欠けると思う。例えばテントに入る体験ができるなど、実際に体験ができるイベントであれば参加してみたいと思った。

委：今はハザードマップはインターネットで見ることができるので、今の自分たちの状況について知ることがまず大事だと思う。私は普段から業務で見ている。

委：水害を自分ごととして捉え、実際に水害が起こったときにどうするかという話を家族ですることが重要ではないだろうか。

コ：水害に限らず、何か災害が発生したときに家族全員が違う場所におり、さらに携帯も使えないという状況を見据えてどこで待ち合わせるかということを決めたりはしている？

委：全く決めていない。

コ：そうはいっても携帯は繋がると思ってしまうし、なかなか話すことがないかと思われる。しかし実際には、熊本地震の際、携帯がつながらなくなり小学校６年生の子どもと両親が離れ離れになってしまい、子どもがパニックを起こしたという話もある。

委：町からの情報発信がされていることはわかったが、町の情報収集はどのようにされているのだろうかということが気になった。実際に現場を見に行くことでどんな状況なのかを確かめているのか、SNS などで誰かの投稿を吸い上げているのか、色々やり方は考えられる。氾濫の可能性がある箇所に定点カメラを設置して町のホームページなどで見られるようにするなど、ある意味で住民の危機感を煽るようなこともできるのではないだろうか。

コ：川の増水の状況がリアルタイムで見られて、今のこの川の状況は危ない、などということがわかればということ。

委：実際に目で見ることで危ないと感じることができる。今までは避難しなくてもいいような雨だったかもしれないが、ここ最近は避難しないと危ないような雨に変わってきていることも事実である。しかしながら住民はまだそこまで危機意識を持っていない。住民の意識は依然として変わっていない。

コ：（上記委員が）実際に災害の現場に行かれる立場として、避難は早めにした方がいいと感じられているだろうか。

委：避難は早めにした方がいい。実際に一気に増水していく川を同じ場所でずっと見ている人間からすると、これはもう危ないと思うこともある。特に高齢の男性の方は川の様子が気になって見に行くこともある。これは本当に危ないことであり、そういうことをさせないようにしてほしいなと仕事をしながら思っている。

コ：目で見ることは重要だが、自分で現場に見に行くことほど危ないことはないと。だからインターネットで見られるようにしようということ。

委：大刀洗町であれば横のつながりもまだあると思うので、隣の家の人が情報を得て川の増水に気付き、避

難した方がいいと言ってくれるかもしれない。

コ：行政としてどのようにして情報を収集しているかということについてはいかがだろうか。

町：建設課や産業課の職員が現場を見に行く。また、消防団などが避難を呼びかけたりもしている。

町長：カメラなどで見られるかということについては、国交省と県のサイトで各ポイントの水位と状況がリアルタイムで見ることができるようになっている。このあたりの地域では、筑後川本川の水位が上がったときに支川の水門が開くのか閉まるのかということが非常に重要であり、そのことも見ることができる。町の職員はそうした情報を常に把握しているうえに、気象台や国交省の河川事務所、県の県土整備事務所、ダムの管理事務所からホットラインを通じて情報が入ってくるようになっている。これらに加えて地域からの情報なども含めて総合的に判断を下している状況である。

町：実際に水害が発生した際などは、我々建設課の職員がすぐに現場に出る。その後防災係に情報を共有し、防災係の方で一括して対応するという流れとなっている。水門の状況や河川の状況はいつでも見られるようにはなっているものの、皆さんがそのことをご存じでなかったということは一つの課題だと思う。そこで、大刀洗町の方が情報を収集したいときにはまず大刀洗町役場のホームページをご覧になると思うので、町のホームページからこれらの情報に簡単にアクセスできるようにしておくことなどの対応で周知ができると考える。

委：色々探さないといけないと情報にたどり着くのが遅くなってしまううえに、手間がかかると探さなくなってしまう。水害に関する情報がまとめられているページがあればいいのではないかと思う。

町：実現に向けて考えていきたいと思う。調整池については福岡県とも協力しながら情報を周知できるように努めているところであり、住民の皆さんにすぐに知っていただけるようにしたい。

委：目に見えてわかるように情報を出していただければと思う。

コ：雨量と水位にはタイムラグがあること、さらに上流のダムの水門の開閉によって一気に水位が変わることがあるが、一見安全に見えても実はかなり危ない状況に差し掛かっているということは情報発信できているだろうか。私の知っている町ではそれができていないのでこれから発信していこうという動きになっているところもある。

委：国交省の方はご存じだと思うが、町内のそれぞれの川には上流にダムがあり、大雨が降ることが予測される場合はあらかじめダムの水位を下げる必要があるため、事前に緊急で通知を発出し、川の周辺ではサイレンを鳴らして緊急放流を知らせる。ダムが水を抱えられるように準備している段階で治水は始まっていると思う。その間に自分たちには何ができるかを考える必要があるのではないか。

河：国交省は筑後川水系では松原・下筌ダムしか管理をしておらず、そのほかのダムについては水資源機構が管理している。国交省が管理していない理由としては治水だけではなく農業用の水を確保するという目的でダムを建設しているためである。近年、雨の降り方が強くなっている中で、農業用だけではなく治水にも利用していかないといけないという考えがある。水資源機構が管理する農業用に建設されたダムにおいても、農業のために必要なぎりぎりのラインまで大雨の前には事前に放流している。大雨が降ってダムが満水になり、このあともう一雨降るというときにはダムの放流をしないといけないこともある。放流するタイミングで雨が止んでおり、一安心していたとしてもダムの放流により河川の水位が上がるということがある。ダムの放流の前には必ず関連する首長も含めて事前にお伝えをしているが、緊急事態ということもありその理由まで詳しくは説明していなかった。雨の降り方に沿ってその場その場で方針を決めているので事前に細かく周知することが難しい部分もあるが、地域を守るための対策だという

コ：コーディネーター、委：委員、町：町出席者、河：河川事務所

ことでご理解いただけると幸いである。

コ：そうした情報も得たうえで役場としては避難指示を出しているので、今この瞬間の状況だけをもって判断しているわけではないということをわかっていただければ。

委：皆さんのおっしゃることは頭では理解できているが、自分が避難しないので自分のこととして聞こえてこないところもある。もっと川のことについて関心を持つ必要があると思うが、住んでいる地域が水害には無関係であることからなかなか難しい。

コ：町内で一番の高台にお住まいであることから、水害に関しては無縁に近いという環境である。委員の皆さんは無作為で選ばれているという特性上、全くの無関係の方もいらっしゃるとは思うが、親族や知り合いなど輪を広げていく中でどこかに水害に関係のある方はいるはず。安全な場所に住んでいる人だからこそできることもあるのではないかという考え方もできる。

町：自分は実際に水害に遭ったことも身近で感じたこともない。職場から家に帰る途中、安全に帰ることができるかどうかは不安に思う。自分の地域内に避難所があることから、何かが起こったとしてもまあ大丈夫ではないかと思っていたが、今資料を見てみると南部コミュニティセンターは水害には対応していない。何の対策をせずとも、避難所が近くにあるからいいやと思っていた分、すごくショックを受けた。同じことを思っている方はいっぱいいるはずなので、やはり知るということはすごく大切なことだと思う。また、避難所などのアプリについてだが、いざというときに取得して登録するとなると使用するまでにかなり時間がかかることがある。平時のうちに登録しておいて、いざというときにはさっと使えるようにしておく必要がある。簡単なアプリかもしれないが、前もって登録し使い慣れておく必要があるだろう。

コ：普段は全く使わないものを非常時にだけ使おうとすると、いざというときに使えない。つまり普段から使える別の機能が必要なのではないかという話をしている。もしくは普段から使っているアプリと連携させることが重要だと考えている。例えば東京であればSuicaのアプリに連動させるのはどうかという案が出ている。普段から意識して使えるかどうかはすごく大切なことだと思う。

委：私は普段からハザードマップを見たり天気予報のチェックをしたりしている。強い雨が降るとわかったら食料を買いに行く。雨が強くなってくると側溝の掃除をする。自宅の裏庭には水が流れ込んでくるため、水嚢や土嚢を作って水が入ってこないようにしている。雨が強い時には水位を見るサイトもチェックするようにしている。一覧になっていて結構見やすいと思う。避難するかといわれればしないが、車を高台に避難させるなども含めていろんな対策は自分から行うようにしている。自分の対策を行いながらも隣近所への声掛けも行っている。水はあっという間に迫ってくるという印象がある。自宅にいるという選択をして２階まで水があがってきたときはもう諦めるしかないと思っている。

コ：避難はしないものの、自分を守るためにできる限りのことはしていると。そこまで自分でできることをしている方にとって、行政や地域への目線も含めてもう少しここは頑張らないといけないと思うことはあるだろうか。

委：水害対策は難しいことだと思う。億劫なので避難所へはなかなか行かないし、本当に危険となってからでは手遅れ。行政が前もって、と思っている段階では住民はまだ余裕だと思っているが、そのギャップをどうしたら埋められるのかということを考えるのは本当に難しいと思う。それこそ、避難所に行くと商品券をもらえるというようなことでも始めないと変わらないのではないだろうか。商品券がダメならポイントカードを配るとか。ふざけた意見かもしれないが、それくらいしないと家で我慢しようという姿

勢は変わらないと思う。

コ：意識を高めるためには必然性が必要だという話を前回私がしたが、必然性の一つにゲーム性というものもあると思う。

委：ログインボーナスのように。そういうものがないとゲームは毎日プレイしてもらえない。

コ：ただそこまでして避難所に行かなければならないのかという話にはなると思うが。

委：やはりみんな冠水してから避難のことを考え出す。ぎりぎりまで我慢してしまう。あとは避難できなくなってしまった人のために水陸両用車両みたいなものを準備しておくくらいしかないのではないか。

コ：もともとこの町では冠水することを前提として倉庫にボートを備え付けていたという話もあったのと同じ話で、自分たちで自分たちを守るためには何ができるかということを考えた結果かと思う。

委：今日の委員の中で大堰から来ている人と残りの時間話したいくらいの気持ち。我々は水があふれることに慣れているような感覚もある。そんな中でも、家の近くの３本の川が大雨の影響で全て合体してしまっているのを見たときは恐ろしかった。その時は朝倉市の方への一本だけ道が通れる状況だったが、みんながその道に集結するのでめちゃくちゃになった。危ないのはわかっていて川の堤防にのぼったが、逆流の勢いがすさまじく、この世の終わりかと思った。堤防が決壊したら、基礎が丈夫な鉄骨の二階や小学校にでも避難しないとすべて流されると思う。また、自力で避難できない方を連れて避難したことがあるが、２人がかりでも結構厳しい。無理に動かない方がいいと思った。船を家に備え付けるときは１階に置いておいても意味がない。昭和２８年の時は２階から船が出動した。大堰に関しては水害が起きた後の対策を中心にしていく方が現実的かもしれない。何も対策をしないということではなく、避難せずとも安全な場所を確保するということが重要。

コ：朝倉市への道が一本だけ通じていたというのは行ってみてわかったのだろうか、それとも誰かから聞いて知ったのだろうか。

委：郵便局の方まで行こうとしていたら通行止めになっていてみんなが周辺をうろうろしていた。その時に同じようにうろうろしている人から情報を仕入れた。実際の経験からしても大堰地域から避難することは厳しいので、避難は無理だという前提でお金をかけずに安全を確保することが大事だと思う。

委：私は菊池地区なので浸水被害を実際に見たこともない。自治体が避難指示を出していることはわかっているが、その根拠も示していただければと思う。早めに発令しているからこそ根拠がないと伝わりにくい。台風の時は「猛烈な台風」や「最大瞬間風速」などで視覚的に危機感を煽られているから避難所に向かう方も多いのではないだろうか。雨はどれくらいの危険性があるのかというのが視覚的に弱いと思う。そして気が付くと冠水してしまっているという状況に陥るのではないだろうか。私は冠水という言葉の定義がよくわかっていないが、1㎝でも水があふれると冠水なのか、そのほかの定義があるのか知りたい。このように、冠水という言葉一つとっても、私の中では視覚的なイメージが自分の中に入ってこない。視覚的にわかりやすい情報が入ってくれば早めに避難する人も増えるのではないだろうか。

コ：どうやって情報を見やすくするかということが重要かと思う。冠水は道路や田んぼ、畑に水が入ることかと思うが、何㎝などという定義はないと思う。詳細についてはいかがか。

河：冠水という言葉の明確な定義はない。深さは一概に測ることができるものではないので、大水があったときにどれくらいの広さが水に浸かったかという調査をかけたりして判断する。建物（住宅）の床下まで水が入っていったのが何軒あるか、それを超えて建物の床上まで上がったのが何軒あるかなどが洪水の

被害の目安となる。

コ：浸水という言葉は家屋に対して使う言葉であり、冠水は道路や畑で使う言葉である。大刀洗町の場合、床下浸水、床上浸水はほとんど発生していないのではないだろうか。その分冠水のことについての話が圧倒的に多い。現在の冠水状況は～㎡です、のようにあらわすことができればインパクトのある情報発信ができるかもしれないと思った。

コ：後半の振り返りを行う。セミナーや勉強会に参加することは重要だが、体験すること、目で見ることがもっと重要。しかしながら大雨の時に自分で見に行くのはやめておく。続いてネット上で水害の情報を一元化して伝えるのは工夫が必要だという話があった。ハザードマップや天気予報なども含めて知ることが自分たちにとっては重要で、家族でも共有するべき。アプリは普段から使っておかないといざというときに全く使えなくなってしまう。自分や自分の家族を守るために家の周りでできる対策をとっているという話もあった。また、行政がどのように情報を紹介しているかという話もあった。避難所に行く、行かないという議論については最後まで続きそうだが、一つのアイデアとしてインセンティブを付与することで避難所に誘導するという案が出た。ただし、避難所に行くということ以外の安全策を行政としても考えていく必要がある。

以前の大刀洗町の住民協議会後に委員の皆さんの LINE グループができたことがあった。少し前の豪雨の際、写真でそれぞれの校区の現況を送り合っていた。きめ細かなところをすべて行政が支えられるわけではないので、一人一人の意識が重要だと思う。

委：ポケットサインというアプリ（避難所で使うアプリ）は大刀洗町でも導入されるのだろうか。私たちは大刀洗独自の情報がほしいが、そうしたことを見ることはできるのだろうか。

町長：アプリが大刀洗町で使えるかというと、使えない状況である。基本的な防災情報等については町の LINE を登録していただくことで見ていただける。どこが通行止めになっているかということについては町のホームページで随時更新している。ならびに、今日の資料のような過去の情報についても掲載している。職員の中での情報共有は一括して行っているが、それをどのように住民の皆さんにお伝えしていくかということについては考えさせていただきたい。

コ：今、ライブカメラはポイントごとに設置されているかと思うが、大刀洗町の中で限定するとそんなにきめ細かい情報を見ることはできないと思われる。大刀洗町の情報伝達手段のポイントとして LINE アカウントが挙げられると考える。皆さん登録しているだろうか。（登録している方は少ない）ぜひこれを機に登録していただいて、触れてみたうえで意見を出していただきたい。

町長：町の LINE の登録者数は 4,700 人だそうです。

コ：いろんな市町村が LINE を使って日常的な情報を出しながら、災害時には避難情報なども出している。登録者数が人口の４分の１というのは自分の感覚では若干少ないように感じる。人口よりも多い登録者数を持っているアカウントも１０市町村ほどあり、全国で一番多いのは福岡市。福岡市は１６０万人の人口に対して２００万人くらいに登録されている。それくらいの人が登録すると双方間のやりとりがかなりできる。最後に感想を伺って終わりにしたい。

委：今回の会議でいつか避難所に行ってみようと思った。

委：私は避難所に行くのではなく、自宅において、水害への不安な気持ちと闘いながら子供たちとどう楽しめるかかと思っている。

コ：コーディネーター、委：委員、町：町出席者、河：河川事務所

コ：避難所に行かなくてもいいと言った自治体は今までに見たことがない、非常に難しい問題。

町長：避難というのは避難所に行くことだけが避難ではない。今いる場所にいる方が安全だということも当然考えられる。お住いの地域や災害の種類によって何が安全なのかということは変わってくると思うので、丁寧な対応をしていきたい。動かない方が安全な方と動いた方が安全な方に対して一律にシンプルに伝えることは難しい。いろんな選択肢があるという伝え方になる。

委：今日の会議に出るまでは知らない情報がいっぱいあったのでこれからもっと知りたいと思った。

コ：次回は先ほどもお伝えした通り、三原市の方にお越しいただく予定。避難所に限らず地域として何ができるのかということを話していきたいと思っている。校区によって水害が多い地域、少ない地域が明確になっている中でどうやってみんなで意識を高めていくことができるのかということについて考えていきたい。

（4）町長挨拶

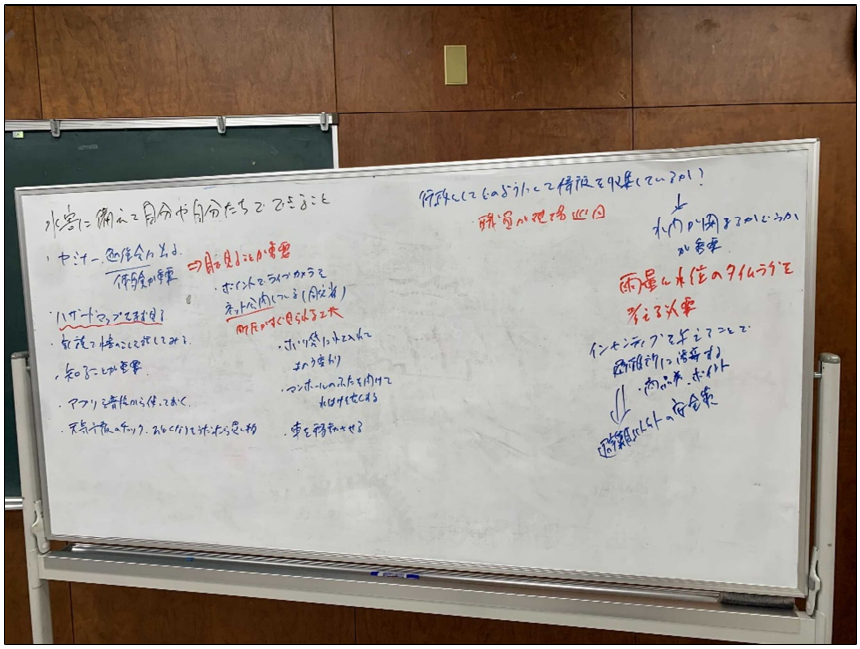
今日は熱心にご議論いただきありがとうございました。情報提供として、水陸両用車という話があったが、久留米の広域消防には水陸両用の車がある。また、消防団の分団には救命ボートを配備している。インセンティブの件については、なかなか避難所にインセンティブは付与できないが、現在各校区において実施しているMEGURU STATIONにおいてアプリを登録していただいてチェックインしていただくと動物が出てくる。避難所とは関係がないが回数が増えるとレアキャラが登場したりするので伝えさせていただく。

4．事務連絡

総務課より事務連絡

- 第３回は１月２７日（土）午後１時から開催する。

ホワイトボードの写真



コ：コーディネーター、委：委員、町：町出席者、河：河川事務所

次回協議予定の概要

- 広島県三原市からナビゲーターにお越しいただき、他市町村の取り組みを聞く。
- 水害に関心を持つために何ができるか。
- 少しでも安心感を持って生活するには平時のうちに何ができるか。

コ：コーディネーター、委：委員、町：町出席者、河：河川事務所